

壬生川地区タウンミーティング開催報告	
日時	令和2年9月30日（水）19：30～21：00
場所	壬生川公民館2階大ホール
参加者	【地域側：11名】壬生川地区連合自治会長、壬生川小学校長、壬生川小学校PTA会長、壬生川愛護班会長、社会福祉協議会壬生川支部長、民生児童委員協議会壬生川地区会長、壬生川地区老人クラブ連合会長、壬生川地区連合婦人会長、体育協会長、交通安全協会壬生川支部長、壬生川地区防災士連絡協議会長 【行政側：4名】市長、壬生川公民館長、政策企画課長、公共施設マネジメント推進係長
次第	1.開会 2.壬生川地区連合自治会長 挨拶 3.市長挨拶・コロナ関連対策事業と総合計画に関するポイント関連事業説明（別添資料①） 4.テーマ「公共施設のあり方」に関する現状等説明（別添資料②）・意見交換 5.まとめ・閉会
概要	
自治会長挨拶	この会で西条市が抱える課題を地域の皆さんと市が共有し、共に考え話し合うことで、より魅力的で住みやすい愛着の持てるまちづくりに繋がるだろう。 この先10年・20年後の壬生川地区を想って、ざっくばらんなご意見をいただきたい。
市長事業説明	<ul style="list-style-type: none"> ・西条市は今後30年間で約3万人の人口減少が予測されている。（約108,000人：2015年実績 → 約78,000人：2045年時点の人口推計値） ・上記3万人の内、多くが15歳～64歳→働く世代がいなくなることで、地域や産業の課題増が予想される。 ・「人口減少・少子高齢化への対応」を最重要課題とした総合計画後期基本計画を策定。2045年時点の人口推計値 約85,000人を目指す！ ・優先目標を3つ設定。A)健康寿命の延伸、B)働きがいの創出・経済活力の維持、C)経営感覚のある行財政運営の実践。 ・市民・事業者の皆さん、行政がともに力を合わせて、将来世代にバトンタッチできる「持続可能な西条市」を実現しよう。
テーマに関する現状等	<ul style="list-style-type: none"> ・西条市の公共施設は、同規模自治体の1.6倍(延床面積)あり、その半分以上が老朽化(築30年超)している。 ・公共施設マネジメントとは、施設の安全管理と財源確保を両立するための適正配置を実現することである。 ・人口減少・少子高齢化を踏まえ、今後の行政サービスにおいて、削減余地があるのは公共施設のみである。 ・建物は縮減しても機能やサービスの向上を図る「縮充」の発想で施設のあり方を見直すことが大切である。 ・市民のみなさんと情報を共有し、思いを共感し、新しい公共施設のかたちを考える共創を目指していきたい。
参加者の発言要旨	市の発言要旨及び対応
<p><施設整備について></p> <p>合併して多くの施設を持つことになった。財政的にも厳しい中で、改修時期を迎えている建物が多いが、具体的に統合・整備方針は示されているのか。</p> <p>また、本庁と3カ所ある総合支所の関係は今後どのようになるのか。</p>	<p>公共施設に関する利用率、運営コスト、老朽化・耐震化等、データに基づく評価を今年度行っており、その結果により施設再編等、今後のあり方を検討していくことになる。</p> <p>市庁舎については、合併時に本庁方式としながらも、旧行政区にそれぞれ総合支所が残っているが、現在、内部で「支所のあり方検討会」を立ち上げ、機能的な面でどのような姿が良いか考えているところである。合併後20年(令和6年)までにはしっかり結論を出したい。</p> <p>また、公民館は学校と同様に地域コミュニティの核になる施設だと考えている。地域づくりの拠点としてさらに地域自治を推進するために、公民館の機能・人的体制・運営について検討しているところである。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨及び対応
<p><施設の集約化・複合化について> 単純に言うと、2つある学校を1つにするという考えか。その場合、今あるどちらかを残すのではなく、その中間地点に新しい施設を作っていただけるのか。</p>	<p>現状、小学校の統廃合については考えていない。同じ校区内にある学校を中心に公民館等の周辺施設を複合化できないかという考え方である。具体的な計画があるわけではないが、今後このようなことを検討していきたいと考えている。 一例として、壬生川小学校では、敷地外にあった放課後児童クラブを学校内に入れたという事例がある。</p>
<p><小学校のあり方について> 20年後には、多くの校区で各学年1クラスになりそうである。最低2クラスが望ましいと文部科学省の考えがある中で、少人数での教育が本当に良いかという葛藤がある。 子どもの声が聞こえなくなると地域が寂れると言うが、将来を託す子どものことを一番に考えて、その次に自分達のことを考えたら良いのではないか。 また、教育費が今後削減されると、市内小中学校35校の配分額は更に少なくなる。 将来の学校のあり方について、集約や統廃合も選択肢の一つとして、地域や保護者、学校関係者でも検討していきたい。</p>	<p>学校現場に立つ先生による非常に重みのある発言だと感じている。 しかしながら、現在ある全35校を維持し、子ども達の教育のために今後も予算を確保していく。 子どもの声がある限り統廃合は避けたいが、将来から逆算して私達があるべき姿を考えていくこと（フューチャーデザイン）が今を生きる大人の責任だと思う。 長い目で見た時に、子ども達にとって一番良い方法を学校や保護者の皆さんと議論を進めていきたい。</p>
<p><壬生川公民館の駐車場確保について> 公民館の使用頻度が高いが、駐車場が狭い。その上、粗大ごみが置かれて駐車場が半分以上使えなくなっている。他の広い場所を確保するか、粗大ごみをどこかに移して駐車場スペースを確保していきたい。</p>	<p>児童数が減少する中、施設の形態も変わり、将来的には公民館と学校が複合化し、駐車場の問題も解決しているかもしれない。 ご指摘のとおり、旧東予市内で行われている粗大ごみ置き場を公民館の敷地に設定するやり方は、早期に改善が必要であると認識している。 公民館の敷地ではなく、他の一般のごみと同様にもう少し地区を細分化したごみステーションに置くなど、ごみ行政の運営を皆さんと一緒に考えなくてはならない。</p>
<p><学童の保育、教育現場について> 学童保育について、先生方は大変だと思うが、子どもが学校にいるという安心感もあり、感謝している。 20年ほど前に壬生川幼稚園が集約された時は、驚いたが、発展的な形であれば小学校においても状況に応じて集約もあり得るのではないかと思う。子どもにとっても、クラス替えを経験することは大事だと思う。 基本的に学校は集約の対象になっていないようだが、例えば給食調理室やプールなどの特殊な施設は、部分的に集約をして、子どもにより良い変化があれば良いと思う。</p>	<p>教育現場との調整で難しい面もあるが、市としては、放課後児童クラブを学校施設に移していく方針である。 学校は子どもが安心できる場所ではなくてはならないが、例えば1クラスしかないことで、いじめなどの問題が長引いてしまうことも考えられるので、より多くの皆さんの声を拾い、対処していきたい。 また、給食室は老朽化が顕著になってきており、1校に1給食室が本当に必要か検討する。丹原と小松の学校では給食センター方式で運用しているが、質も向上してきている。 効率化ばかりを優先させるのではなく、食育など、子どもに対してしっかりと投資していきたい。</p>
<p><子どもと地域の関わりについて> Uターン促進の取組みにおいて、子どもが将来この町に帰ってきたいと思えるようには、町の人とどれだけ関わったかが大事だと思う。 焼津市の学校と公民館の複合化の事例では、地域の人と子どもが交流を図れるメリットがあると感じた。一方で、学校では個人情報を取り扱っている側面もある。メリット・デメリット、課題を明らかにした上で、先生方の意見も伺いながら進めてほしい。</p>	<p>子ども達にまちへの愛着や誇り（シビックプライド）を持ってもらえるような教育が大切だと思う。ここに帰ってきてくれることを望んでいる。そういうまちづくりをしたい。 学校と公民館の複合化モデルを作っていきたいと思っているが、メリット・デメリットを明らかにしながら一つずつチェックし、あり方を考えていきたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨及び対応
<p><避難所の確保について> 各施設の管理運営費などをトータルしたら相当な金額になることがわかった。 施設の複合化（縮充）における要望としては、施設は災害時の避難場所にもなるため、施設を削減するとどこに逃げればいいのか対策を講じてほしい。</p>	<p>現状、新型コロナの感染対策から、密を避けることも問題になってくる。学校の教室を開放してもらったり、民間ホテルを使わせてもらうなど、工夫をしたい。 また、自主防災組織・防災士の皆さんからも知恵をいただきたい。</p>
<p><公共施設の利用促進について> プールの使用率について市内の人が55%、市外の人が45%という説明があったが、本来は市民が使うための施設である。 どんな施設も大いにPRし、活用してもらい、市民の活性化につなげるのが公共施設の役割だと思う。</p>	<p>西条市民の税金で運営しているため、市民の利用が前提であり、PRの必要性についてもおっしゃっておりである。 一方で、総合体育館やビバ・スポルティアのように設備が整っている施設はPRをしなくても市外からどんどん利用者が来ているが、それにより、西条市民の利用が制限されては本末転倒である。 なお、市内に2か所あるプールについては更新時期が到来しているため、このタイミングで存続等について考えていく。</p>
<p><コロナによる施設利用制限について> 老人クラブでは、今年コロナの関係で活動ができていない。公民館の2階大ホールにも3密回避があるので、全員収容できるかわからない。入場人数の規制（50%以下）はいつまで続くのか。</p>	<p>【後日対応：10月中旬】 「収容定員の50%以内」という制限は廃止した。人と人との間隔を1m確保する条件の下、例えば、壬生川公民館の2階大ホールにおいては、約50人程度の方が利用可能になっている。 ただし、大きな声での会話や発声等を行う場合（コーラス・演劇など）は、対人距離を2m以上確保する、対面しない、歌唱時もマスク等を着用、使用後に備品の消毒等さらに感染対策の徹底を利用者にお願いしている。</p>
<p><コロナでの施設利用方針について> これからコロナが終息する見込みがない限り、施設の利用方法を具体的に考えていかないといけない。どう取り組んでいくか。</p>	<p>コロナ禍での施設の運用としては、コンビニでの証明書等の発行や非対面のウェブ会議の推進などが検討すべきものと認識している。 ただ、このタウンミーティングのように顔を合わせて話し合うことも大切である。場面に応じて皆さんと相談しながら、運営方法を決めていきたい。</p>
<p><子ども達の体力低下について> コロナ予防のための休校により、体力が落ちているように見受けられる。運動公園のプールは使用中止だったが、地区によって利用できる日を決めるなど配慮が欲しかった。家の中にいることが多く、日光に当たることが少なくなっているのが心配だ。</p>	<p>休み明けは体力が落ちていたようだが、日常的な活動の中で、徐々に戻ってきていると感じている。新型コロナウイルスの不安が長期化する中で、ストレスをうまく回避しながら、向き合っていかなければならない。子どもや高齢者、市民の皆さんのためにできることを考えたい。</p>
<p><救急医療について> 救急の場合は、西条中央病院だけでなく周桑病院も活用してほしい。</p>	<p>西条市は4病院（周桑病院、西条中央病院、済生会西条病院、村上記念病院）で二次救急の受け入れをしている。 救急医療の現場では、軽症の患者がわざわざ深夜帯に病院にかかるといった例が散見されており、これらの病院が苦慮している。地域医療を守るのも私達一人ひとりの行動であると認識し、ご協力いただきたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨及び対応
<p><婦人会の減員について> 婦人会は、高齢化が進んでおり人数が少なくなっている。 婦人会が消滅しそうなので、地域の方に協力してもらいながら、若い会員も増やしていきたいと思っているが、仕事をしている方も多く、なかなか難しい現実である。</p>	<p>同様な悩みを抱えている団体は他にもあると思う。婦人会だけでなく自治会や学校、PTA、本日集まっている各団体の皆さんが横の連携をして、地域の課題を解決していくのが望ましい。</p>
<p><バス路線の廃止について> 大保木方面に行くバスがなくなると知った。あっちの方へ行くお年寄りの移動手段がなくなってしまうため、そういう人達のことをみんなで考えなければならぬ。</p>	<p>せとうちバスの加茂線のことだと思うが、9月30日をもって終了になる。公共交通の移動手段の確保としては、デマンドタクシー（予約制の乗合いタクシー）で対応していく。 市民の皆さんとより良い方法を考えながら、みんなで利用してもらえるものにしたい。</p>
<p><フォレストアドベンチャーの料金について> 立派な施設ができたが、使用料が高く親子で一緒に行けない。例えば、西条市民は市外の人と差別化を図って、優遇してもらいたいと考える。</p>	<p>民間企業が運営しており、料金設定は高く感じるかもしれないが、それでも人気で楽しめる施設である。料金については、民間施設であるためご容赦いただきたい。</p>
<p>まとめ</p>	<p><市長> 現場に足を運んで皆様の声を聴き、行政運営に反映していくことが基本だと思っている。皆様から頂いたご意見をフィードバックし、より良い壬生川地区にしていきたい。 <連合自治会長> 本日の意見交換の内容を各団体に持ち帰り、議論を深めていただきたい。また、今回のテーマに限らず、壬生川の未来をより良いものにしていくために、住民みんなで話し合い、動き出すことが重要である。自治会としても、市と連携しながら皆さんの取り組みを後押しできるように励んでいきたい。</p>

<当日の様子>

